

白馬山岳域における標準化された雪崩情報の提供

○出川あずさ・舎川朋弘・林智加子・池田慎二・
五月女行徳・Damian Barwell（日本雪崩ネットワーク）

1. はじめに

日本雪崩ネットワーク（以下 JAN）では、2012 シーズンより、北米で公報されているものと同一の標準化された雪崩情報の発表を白馬山岳域を対象に、日本で初めてスタートさせた。この雪崩情報は、山岳ユーザーの行動計画と意志決定をサポートすることで、雪崩事故発生率の低減、および雪崩事故が発生した際の被害軽減に寄与することを目的にしている。

2. 背景と方法

山岳ユーザーに対する 5 段階の危険度区分を用いた雪崩情報は、1993 年にヨーロッパで始まり、北米には 1994 年に導入された。しかし、その後、雪崩発生の可能性が低いものの、一旦、発生した場合の結末が深刻な状況での危険性を的確に表現できていないなど、いくつかの問題が露呈した。これをリスク・コミュニケーションの観点から解決するため、米国、カナダの雪崩情報に関わる現場専門家が集まり、ADFA2（Avalanche Decision making For Advanced Recreationalist 2）が 2005 年にスタート。多数の議論を通し、視覚的なイラストの使用や「留意すべき雪崩」という新しい概念の導入、またハザード評価プロセスの標準化や雪崩危険度の定義の改善がなされた。JAN では 2001 年から提携する Canadian Avalanche Association と共に、この概念に沿った雪崩情報の準備を進めてきた。なお、欧米では、数日先までの「雪崩予報」の形態で雪崩情報が提供されているが、JAN では、実況データに基づく雪崩ハザード評価を「雪崩情報」として発表している。

3. 体制

JAN が主催する現場プロ対象の講習会である Level 1 あるいは国際資格である Level 2 の所持者を中心とした登録メンバーが、山岳での積雪コンディションを情報共有システム「雪の掲示板」に書き込む、あるいは雪崩情報の担当メ



ンバーにメールや電話等で実況報告を入れる。担当者は、必要に応じて情報提供者に連絡を取り、より詳しい状況の把握を行う。その後、それらの実況データを元に、翌朝発表予定の雪崩情報の素案を作成し、担当メンバーで確認および修正を行う。発表の朝、観察された気象データと

天気予報を加味して素案を再度修正し、最終版を作成。ウェブに情報を掲載した後、Twitter にて情報が更新されたことを告知する。

現在、白馬山岳域で活動する情報提供者は Level1 で 14 名、Level2 で 4 名おり、雪崩情報を発表する前日には、必ず、誰かしらは山岳に入り、実況データを採取し、それに基づく雪崩ハザード評価を行っている。2012 シーズン、白馬山域のみで「雪の掲示板」には月平均 50 データ（1 月～3 月）の書き込みがあった。それらを利用しつつ、2012 年 1 月 7 日から週末の土日を中心に雪崩情報を定期的に発表し、最終の 4 月 1 日まで全 29 回を実施した。

4. おわりに

現在、週末のみの発表となっているのは、実況データを提供して頂ける教育を受けたガイドのツアーが週末に多いこと、また専従者を置く資金的な余裕がないため、山岳利用者の多い週末のみに絞っている。今後は、情報の信頼度向上の鍵となる実況データ提供者の質的・量的、両面での拡充にさらに努め、山岳レクリエーションの雪崩安全に寄与していくものである。